

▼ポイント

住みよいまちづくりを進めるに当たっては、地域間の連携や交流・協力を推進することが必要となります。そして市民ニーズの多様化・高度化など行政需要の変化に対応した行政機構の再編を図るとともに、効率的・合理的な財政運営が必要です。

▼めざす方向

市民等が各地域を舞台に、自ら考え行動するとともに、行政と市民の協働による個性あふれるまちづくりをめざします。

●将来都市構造

木曾川が育み美濃山地に囲まれた豊かな自然と都市が調和し、すべての人々が生き生きと活動する元気で美しいまちを形成し持続していくため、新市が均衡ある発展を成し遂げていくことが重要です。そのため、地域の自然・歴史・文化・産業・交通等の要因を踏まえながら、調和のとれた都市となるよう、計画的なまちづくりを進めます。

※4ページ図1を参照

◇森の回廊

圏域の北側には、水源林としての里山が広がり、野生動植物の宝庫であるとともに、数多く

の遺跡と遊歩道が分布し、広域的なレクリエーションの場ともなっています。これらの自然資源を「森の回廊」として位置付け、緑のネットワーク化を図ることに、豊かな自然と共生した都市を創出していきます。

◇川の回廊

新境川や大安寺川等は、上流の水源地から、ため池、田園を経て、まちなか、そして木曾川へと流れ、良好な自然や田園風景を形成し、様々な表情を見せています。

木曾川やこれらの水辺空間を「川の回廊」として位置付け、新市の水循環の核として保全するとともに、自然とのふれあいの場となるよう親水性の確保を基本とし、豊かな水と緑の帯を作り出していきます。

◇まちの回廊

商業・公共施設などの都市機能が集積している国道21号、JR高山本線、名鉄各務原線、東海北陸自動車道、岐阜各務原IC、川島地区を、東西方向に8の字状にネットワーク化します。これらと、テクノプラザなどの産業関連機能が集積している南北交通軸を合わせ、「まちの回廊」と位置付けます。

「まちの回廊」では、都市機能の連携・強化を図るとともに、適正な市街地の整備を進め、快適で安全な都市空間の形成を図ります。

◇緑の拠点

交流の森（河川環境楽園、勤労青少年運動場周辺）・城山の森（伊木山・城山周辺）・各務の森・空の森（航空自衛隊岐阜基地周辺）を「緑の拠点」として位置付け、自然環境の保全に努めながら、緑地や水辺を体感できる施設や、広域的な観光レクリエーション施設等を整備するなど、自然との共生・ふれあいの場を創出します。

◇都市拠点

まちの回廊に沿って、いくつかの「都市拠点」を設け、地域固有の文化を大切にしながら、生活・文化・交流・医療・産業など各種都市機能の集積を図り、快適で魅力ある市街地の形成をめざします。

◇産業拠点

テクノプラザ周辺、那加権現山東部地区、東海北陸自動車道・岐阜各務原IC周辺等を「産業拠点」と位置付け、産業基盤の整備を計画的に進め、新規産業の育成・誘致を図っていきます。

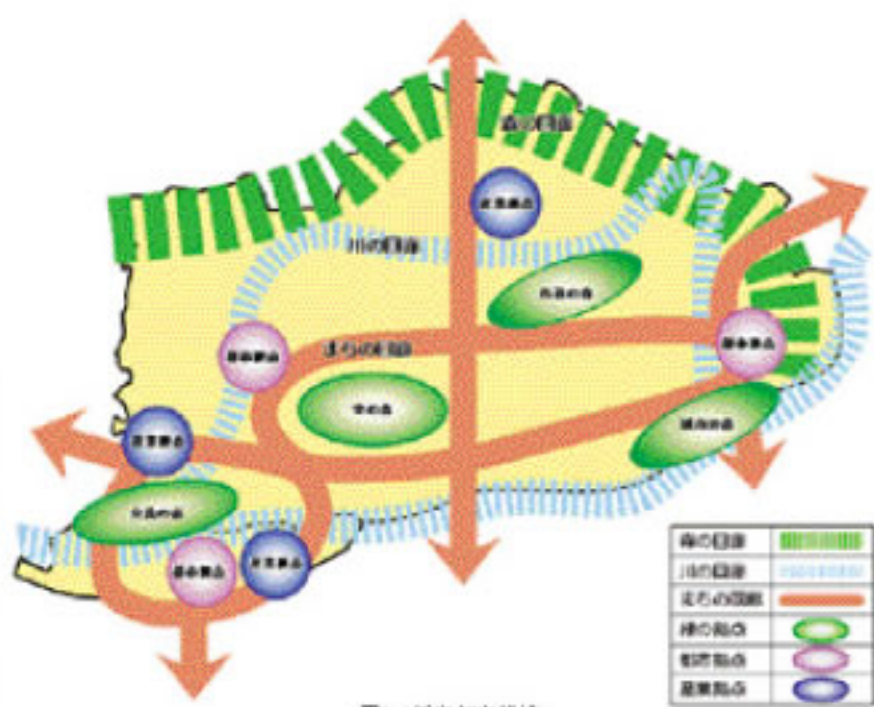


図1 将来都市構造

●将来の重要拠点

回廊と拠点から構成される新市の将来都市構造に基づき、今後、形成されるべき具体的な重要拠点は次のとおりです。

※5ページ図2を参照

◇都市拠点

岐阜大学農学場跡地周辺、熱沼・新熱沼駅周辺、川島地区中心部

周辺を都市の顔となる「都市拠点」として位置付け、市街地の緑・水辺空間の創造や、生活・文化・保健など各種都市機能の集積を図っていきます。

【シビックセンター】

岐阜大学農学場跡地と市民公園を緑の核として、周辺の公共施設の緑化、河川や道路の緑の充実による都市軸の形成、水辺空

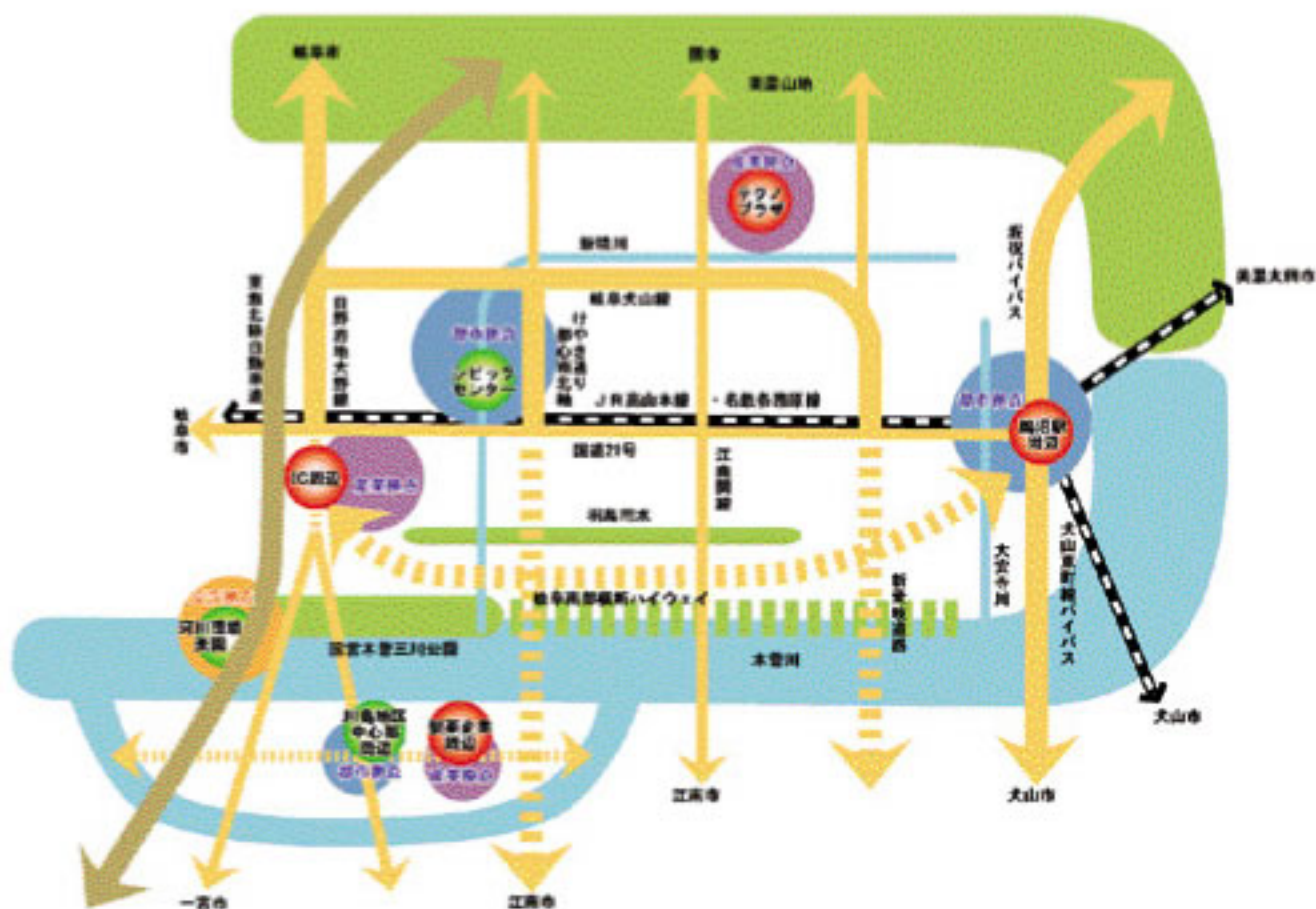


図2 将来の重要拠点

間の整備等を進め、森に囲まれたシビックセンターの形成をめざします。

【鶴沼駅周辺】

道路・公園等の都市基盤の整備を図るとともに、鉄道による地域分断を解消する生活幹線道路を整備するなど居住環境の向上に努めます。また、旧鶴沼宿地区との連携や、木曾川の自然環境・景観を生かしたまちづくりを進めます。

【川島地区中心部周辺】

旧役場を中心とした文教施設・商店街等を文化サービス地区と位置付け、魅力ある都市拠点づくりを進めます。

◇産業拠点（※再掲）

テクノプラザ周辺、東海北陸自動車道・岐阜各務原IC周辺等を「産業拠点」と位置付け、産業基盤の整備を計画的に進め、新規産業の誘致を図ります。

【テクノプラザ】

各務原地区のインダストリアルパークとして、新たな産業立地の受け皿にふさわしい緑豊かな環境の中でテクノプラザ等と連携し、情報産業、次世代産業が立地する新産業の拠点形成を図ります。

【IC周辺】

東海北陸自動車道・岐阜各務原IC周辺地区において都市の新たな拠点にふさわしい市街地景観の形成を図りつつ、産業拠点づくりを進めます。

【製菓企業周辺】

エーサイ（株）川島工場を中心とした地域において、工場内の緑と周辺道路の緑を一体化するなど、景観的にも周囲との調和が図られた産業拠点として位置付けていきます。

◇交流拠点

木曾三川公園周辺を、新たに「交流拠点」と位置付け、自然環境の保全に努めるとともに、賑わいのある自然との共生・ふれあいの場を創出します。

【河川環境楽園周辺】

河川環境楽園については、自然に親しめる場とともに、交流産業を促進する商業地の形成を図ります。

●新市の施策

新市の将来像を実現していくため、表（6-17ページ）のように施策の展開を図ります。

●公共施設の統合整備と適正配置

公共施設の統合整備と適正配置